

# 庁舎建設 ふちゅうかわら版 第4号

## 市民の安全・安心を支える 防災拠点としての市庁舎



10月12日、第4回府中市庁舎建設基本計画市民検討協議会が開催されました。  
今回は、「5個性ある新庁舎、ふちゅうで実現」  
「防災拠点としての市庁舎」ということで、「東日本大震災の際に、市民の目線で感じたこと」、「新しい庁舎において、検討・改善すべきこと」という2つのテーマでディスカッションを行いました。  
実際に東日本大震災で経験した事柄でもありますが、庁舎機能と直接関連する意見のほかにも、市内の避難所へ向かう避難経路や情報発信、物資供給など運用面に関する意見も多く出されました。  
また平成25年度中に更新予定となっている地域防災計画や、事業継続計画(BCP)といった、上位計画と庁舎機能の整合性についても言及する意見もありました。それにつきましては今後、市の方針としてまとまった段階で皆様にお伝えすることとなります。

—次第一—  
平成25年10月12日(土)  
10:00~12:00  
1. 前回のまとめ  
2. グループディスカッション  
・東日本大震災の際に、市民の目線で感じたこと  
・新しい庁舎において、検討・改善すべきこと  
3. その他



### 職員検討会での意見

第3回職員検討会においても、市民検討協議会と同様のテーマでディスカッションを行いました。帰宅困難者や移動が困難な方の受入れスペースの確保や、カウンター下に来庁者用のヘルメットを常備、避難経路に関しては停電時に備え日常的にも自然光が十分届く計画とするなど、職員の立場から新庁舎で対応すべき内容について多くの意見が出されました。

### 防災拠点としての市庁舎：市民検討協議会での意見

避難経路、避難訓練、災害情報、その他の4つの区分で現庁舎において東日本大震災の際に感じたこと、防災拠点としての新しい庁舎において検討・改善すべきことについてディスカッションを行いました。「ハザードマップの配布や防災無線での情報発信、避難訓練などが行われているが、市民に対して十分に活かされなかったと感じる」などが挙げられ、「取組方法についても再考が必要ではないか」との意見が出されました。  
具体的な対策のひとつには、市民と市の合同避難訓練の実施の必要性について、職員検討会においても同意見として出ています。市と市民の双方が防災対策の認識を新たにし、災害時にそれぞれの役割を果たせることを目指したいと考えます。  
新庁舎の機能としては、免震構造の採用、庁舎内に災害対策本部の設置、市民への正確な情報を発信できるシステムなどが挙げられました。



- 避難経路**  
初めて来た人、子供にも分かる避難経路の表示
- 避難訓練**  
職員、市民合同で来庁者の誘導訓練を実施すべき。(役割分担の明確化)
- 災害情報**  
災害速報が確認できるよう、庁舎内にテレビが必要
- 設備関係**  
非常用電源を長時間もたせる  
・市内大企業等の屋上などに設置  
協力要請  
・電源・システムダウンを防ぐ
- その他**  
・カウンター下に来庁者用のヘルメットを常備  
・帰宅困難者、移動の難しい避難者の受入れスペース  
・停電に備え、階段など奥まった場所にも自然光が届く設計  
・災害時に自転車無料貸出し

	テーマ1 東日本大震災の際に、 市民の目線で感じたこと	テーマ2 新しい庁舎において、 検討・改善すべきこと
避難経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難経路や避難場所がわからなかった</li> <li>ハザードマップを見たことがなかった</li> <li>自宅や学校から避難場所までの安全な避難経路の確保</li> <li>エレベーターが停止し、障がい者が困っていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所を明確に(庁舎内を含む)</li> <li>避難経路をわかりやすく明示する</li> <li>災害時のことも考えて、通路や階段を広めに計画する</li> </ul>
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>救助体制の弱さを実感(大災害時には自衛隊の出動要請)</li> <li>避難訓練の必要性を実感</li> <li>実効性のある訓練が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎を中心とした避難訓練の実施</li> <li>市民・職員合同の避難訓練を突発的に実施</li> <li>小中学校との連携を図る</li> <li>消防、警察と合同で訓練</li> <li>防災教育の強化(庁舎内でアピール)</li> </ul>
災害情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災無線による情報が聞き取り難かった</li> <li>高齢者や子供、障がいなどが、情報弱者とならないような工夫が必要</li> <li>災害時、「市」に頼るという感覚がなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震時、すぐに建物内での避難誘導ができる仕組み</li> <li>常に正確な情報を市民へ発信できるシステムの整備(防災無線等を工夫)</li> <li>市全体の状況を迅速に把握し、地域に即した情報を発信するため各文化センターと連携を図る</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民一人ひとりの災害に対する意識を高めることが第一</li> <li>市職員は高齢者の多い地区や土地の条件など、地域の特徴を知る必要がある</li> <li>携帯電話やメールがつかならなかった</li> <li>食料や電池が無くなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免震構造の庁舎</li> <li>災害対策本部を庁舎に設置する</li> <li>災害時には庁舎内に簡易病室を設置できるように</li> <li>事業継続計画、地域防災計画に基づいた計画の立案が必要</li> </ul>



※各グループの意見など詳細は府中市ホームページをご参照下さい